

保育界

2014

5



発行 日本保育協会

創造性や独創性を育む環境づくり

ー モイゼブルグ幼稚園・保育所（ドイツ）ー

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

子どもの思いやる心、命やものを大切にする心を育むためには、自然の恵みを生かした保育環境づくりが重要です。ここでは、そうした環境づくりを積極的にすすめる海外の事例をご紹介します。



『楽しくて飽きない園庭に』

『創造性や独創性に富んだ遊びができる園庭に』

この園では、上記のコンセプトのもとに、自然を積極的に取り入れた園庭を造成しました。園庭はゾーニングがなされ、五感を刺激するゾーン、体を動かすゾーン、創作活動に励むゾーンなどに分かれています。

例えば、創作活動に励むゾーンでは、枯れ枝がたくさん積みあげられています。これこそが園児の創造性や独創性を育む、最高の遊び道具になります。園児は、この枯れ枝を手にも、ノコギリで伐ったり、やすりで削ったり、金槌で釘を打ち付けたり、あるいは一輪車で運んだり、上手に積みあげたり、楽器にしたりと、様々な遊びを工夫します。みんな夢中になって、思い思いにいつまでも遊び続けます。

園児が夢中になって遊ぶ様子を目にしている保護者にも、この園庭は大人気です。

■日本保育協会ほか後援 『自然とのふれあいを大切にする園づくりツアー2014』

上記のような保育現場を訪問するツアーを7月14日（月）～20日（日）に催します。
詳しくは、(公財)日本生態系協会（TEL 03-5951-0244）までお問い合わせください。